

発行：一般社団法人だんだん会

責任者：宮崎和加子

だんだん便り

第84号 2024年10月10日



我が家で育てた「ナメコ」です。桜のほだ木に植菌したもので、多くのナメコが顔を出してくれました。

原木ナメコは香りが強く、ナメコの表面がツルツルしており、のどごしを楽しむことができます。きのこ味噌汁や、きのこご飯にすると大変美味しいです。

八ヶ岳仙人

グループホームわいわい白州・摩利支天

夏だ！花火だ！



小雨でもしっかり花火が楽しめました。





皆さんが見上げる先に打ち上げ花火が
上がっております。まあイラストほど豪快
ではないですがね💧



新しく入居されました。よろしくお願いいたします。

はじめまして。山
登りや裁縫が大
好きです。
静岡県出身で
お茶に詳しい方
です



担当：三井とし子・湯舟康弘

わがままハウス山吹 (支援付き共生すまい)

人生哲学

寄り添いスタッフ 森 千恵子

ひよんなご縁で4月から寄り添いスタッフとして働いています。山吹にお住まいの方々との会話はとても楽しいです。入居者の唯一の男性の益富初夫さんにいろいろなお話をお聞きしました。

京都で生まれ、大学時代の九州での一時期を除き、ほとんどを山口県で過ごされ、2年前に山梨県北杜市にあるここ『わがままハウス山吹』に引越して来ました。快活でジョークも得意、時にきらりと光る言葉を聞かせてくださいます。

学生時代は太平洋戦争さなか

◆1945年8月6日、広島原爆の日

大学生の時、軍の命令で、学友5人で小さな荷物を広島経由で四国まで運ぶことになっていた。ところが、その直前に広島への荷物は女学生二人が行くことに変更され、自分たちは直接四国への荷物を運ぶことになった。四国へ向かう途中で広島に原爆が投下され、女学生は亡くなった。

◆京都の中学時代の竹馬の友の1人は16・7歳で志願して特攻隊として戦死した。

山口時代

山口県内で働いていた間は忙しく、休みをとることもできなかった。とにかく忙しかった。

退職後は、全国を自動車で行きまわって楽しんだ。

住んでいる地域では、自治会長をし、地域の方々との交流を通して豊かな人間関係を持つてきたように思う。

川柳もその頃から始め、ペンネームは、“一茶”ならぬ自分の名前の初男に因んで「八茶、ヤンチャ」。

北杜・山吹に入居したのは

東京で働いていた息子が定年後(10数年前)に北杜に移住。その後、自分が90歳のころから北杜に移住しようといわれていたんだけど、長く住んだ山口を離れがたく迷っていた。

でも95歳になった時にこれから誰かの助けが必要になることは確かだと決意した。それで息子の家に同居するよりは、山吹のようなシェアハウスがちょうどいいと判断した。



益富初男さん(98歳)(実名)

わがままハウス山吹での生活

「スタッフのみなさんがとてもいい！」とお褒めの言葉をいただきました。

「いろいろな人生経験をした人たちがいっしょに暮らすのだからそれなりに大変なこともある。だけど、ご縁がありいっしょに食事をしながらコミュニケーションをとり、お互い助け合い仲良くしていきたいと思う」

人間には知恵がある。それを使って仲良くしなきゃならん。それができるのが人間なのだから。人間は、肌の色や人種やいろいろな違いを超えて仲良くできる能力がある。そうすれば、争いも戦争もおこらない。

オレンジサロンわいわい

「おはぎ」か「ぼたもち(牡丹餅)」か……

「おはぎ」か「十五夜のお団子」か……

秋だからおはぎ(萩の季節)だよね、団子より「おはぎづくり」をすることにしました。皆さん久しぶりのおはぎづくりでした！



昔はよく作ったもんだけど…



美味しく仕上がりました。
その結果、家族が心配されるほど、お昼におなか一杯に食べました。



© Kazuhito Tada

サロン川柳
今月も健在です！



1, また値上げ 節約生活 もう音上げ
2, きれいです 褒めてくれた レントゲン

にこにこ物語

88歳、真夏の大冒険！？



訪問介護にこにこ 伊佐地江美

西村智子さん（仮名、88歳）が訪問介護のご利用が始まったのは2年前の秋でした。その年の5月に両膝痛で自宅にて動けなくなり入院。他の病気もあり、また聴力低下、聞き取り困難。短期記憶の低下もあります。会話中はいつもにこにこしているが、会話が成立しないことも多々あり。

リハビリ・自立支援を兼ねて、服薬確認、介護職員と一緒に調理をするなどの支援が始まりました（デイサービス利用も同時に開始）。

日々の生活

日々の生活は、いろいろ……。たとえば、訪問するとよく左眼が青くなっていました。「転んだの？」と聞くと「転んでいない」。ご主人も「転んでないよ、机でよく眠っているときに手の上に左眼を置いているからね」と。

また、夜間、起きだして玄関を何度も何度もガチャガチャしているので、ご主人が眠れない。

一緒に調理をしていると「おばあさん（智子さんの母のこと）はお隣のお葬式に行っている。ここはおばあさんの担当だから」と言いつつ包丁さばきは完璧。傍から見ると心配だらけの日常生活。

そんな智子さんの何が冒険なのか？

ご主人の体調に変化が訪れたのは、去年の夏の事です。どうしても検査の為に入院が必要となりました。智子さんは一人では自宅にはいられません。さてどうするか……。そこで、ご家族は考えました。

ショートを利用する？ 違うんです！

なんと、北海道の娘さん宅に行く！ だったので。そして、ななな、なんと！ **一人で飛行機に乗る!!!!** 大冒険です。

そして実行！

松本空港までは山梨在住の娘さんが車で送り、北海道の空港には嫁いだ娘さんが迎えに来る。航空会社の方に事情を話し、機内で話しかけてもらい、様子を見守って頂き飛行機の中は、**往復、一人旅**です。

北海道では、いつもは遠くてなかなか会えない娘さんご家族、そして生まればかりの曾孫さんにもお会いすることが出来たそうです。散歩にも毎日のように出かけ、調理もご家族と一緒にしたそうで、にこにことした笑顔が思い浮かびます。

にこにこ

二週間ほどしてご自宅に戻られた智子さん、何事もなかったようにいつもの椅子に座り、台所では一緒に調理をしながら「おばあさんは…」とお話をされています。

「曾孫さんに会えてよかったですね！」と耳元でお話しするとにこにこ笑顔 ^ - ^

飛行機も、北海道での生活もストレスなく過ごすことが出来たのだと感じました。

こんな大冒険、ケアマネさんをはじめとする周囲の皆さんは大丈夫？ 一人？ いけるの？ と誰もが思っていました、見事に成功でした。

家族愛のあふれる、見事な家族のチームワークで成し遂げたのだと感じました。

誰でも、どこへでも、認知症でも、子どもでも自由に旅行が出来るなんて、すごいことです！

もっと、もっとこのような機会が増え、人生の楽しみが多くなると良いなと感じました。 ^ 0 ^

地域看護物語

エネルギーのバトン 父からのプレゼント

地域看護センターあんあん 輿石里美

細木 忠さん 90代 脳梗塞による後遺症と認知症により介護が必要となり、長男の一郎さんが在宅介護をされていました。忠さんは九州のお生まれ。4人の息子さんを育て上げ、縁あって北杜市にいられたそうです。長らく大工仕事をされていたのでご自宅玄関の手すりやベッドは忠さんの手作り。温かみのある環境の中で在宅療養をされていました。

何度もやってくる試練を跳ねのける！

尿道カテーテルの管理が必要となり、訪問看護の利用が始まりました。在宅療養の間、発熱や管の詰まり、2度の転倒による救急搬送、手術など様々な出来事がありました。凄まじい生命力を発揮され、何度も復活劇をみせてくださいました。息子の一郎さんはお一人でお父様お母様を看られていましたが、少しずつお二人ともに身体の機能が低下していき、介護のご負担も増していきました。それでも献身的に支えられお二人はいつも安心して過ごされているようでした。

意思確認

忠さんは少しずつ食事が食べられなくなり、眠っている時間も増えていきました。それでも看護師が訪問すると持前のユーモアで冗談を仰って、笑顔をみせてくださいました。

発熱することが頻繁となり、幾度となく近いうちに旅立つかもしれない…という時がありました。

一郎さんと今後についてお話する機会がありました。在宅療養を継続するか、入院や施設入所か…。一郎さんは最期まで忠さんを家で看たい、看取りたいお気持ちをはっきりと示され、あんあんの看護師も共に頑張ります、24時間いつでもお呼びくださいとチームが一致団結したように感じました。

旅立ちの時

それから熱や酸素の値が上がったり、下がったり。忠さんも「まだまだ生きるぞ」「苦しまずに死にたい」と様々なお気持ちを看護師に打ち明けることができました。一郎さんはお父様のお気持ちをよく聞かれ、受け止めていらっしゃるようでした。私たちもいつもお二人の気持ちとともにあること、最期まで歩いていくことを都度お伝えしていきました。いよいよ意識の状態が低下していき、お話ができなくなりました。

一郎さんは他の兄弟へ連絡し、三男の三郎さんがすぐかけつけました。時々止まる呼吸、また吹き返してを繰り返えし、三郎さんが忠さんの手を握る中、静かに息を引き取られました。

その時のことを三郎さんのブログから抜粋させていただきます。

「体温高めの自分の手のぬくもりでエネルギーを送るつもりでハンドパワーとつぶやきながら両手で父の手を包みこんだ。数分立っただろうか、突然、父の手がまるでホッカイロがピーク時のように熱くなった。エネルギーを送ろうとして握りしめた左手があんなに熱くなったのは、もしかしたら父の命のエネルギーが逆にこちらに流れてしまった現象だったような気もした」

忠さんからの命のバトンを受け取り、新たに進み始めた息子様たち。一郎さんはその後運命のお相手と出会い、ご結婚され、幸せなご家庭を築かれています。お父様からのプレゼントのように感じます。



カメラマンの三郎さんが撮られた忠さんの手。コンテストでグラプリを受賞された。

山梨日日新聞に掲載されました



山 を 読 ん で

宮崎 和加子

北杜市に30年間住んでいた知人の女性(88)が最近、横浜市に住む長女の近くの有料老人ホームに引っ越していかれた。本人は、北杜の自宅での生活を継続するか、あ

「介護職員不足」「在宅「難民」生まれないように」「訪問介護が打撃」「介護事業者の倒産」「男性介護者もつと頼って」「外国人介護職」など多岐にわたる。介護業界の種々の問題・課題を幅広く取り上げて考える材料を紹介してくれている。

高齢者のように、介護を受けるようになってからでは遅いと本人の意思や希望を半ば無視し予防的に住む場所を変えてしまうことはどうか。本人が望んで変えようとしても実は転居・移住する場所がないのが実態である。要介護者になると介護施設に入所できる可能性はあるが、それでも選択肢は「自宅」か「介護施設」か。「有料老人ホーム」や「サービス付き高齢者住宅」などもあるが、その住み心地は千差万別。

高齢者が望む生き方とは

私は、10年前に北杜市に移住し介護事業を6事業所ほど立ち上げた。私は、10年前に北杜市に移住し介護事業を6事業所ほど立ち上げた。私は、10年前に北杜市に移住し介護事業を6事業所ほど立ち上げた。

ちの近隣の高齢者施設に入ってくれ」と。

はやっと同意したと。

また逆に、70歳代の息子さん夫

要介護状態、いやその予備軍の高齢者は、亡くなるまでの期間、

上げ運営していることから、新聞報道で知る以上に、現場で介護をめぐる厳しい現状を目の当たり

私は「支援付き共同生活住居」というものを開設し、誰でも入居できて入居者同士のつながりを重視したシェアハウスを運営しているが、需要は多い。



か読北護一だ
わと。介るん
・日員・す
き山委護開人長
ざん員会看護展
みやん員でを団
こ者委市業社理
者社事般社理
ん会

いつたいどこでどのように生きていくことがよいだろうか。山日新聞にはいろいろ「介護問題」がよく掲載される。「介護報酬引き下げか」

継続していきけるのだろうか不安になることは少なくない。何より不安なのは、地域住民にとって必要なサービスの種類や量として質が十分なのかどうかである。ま

自宅が最期までという希望の方も多いが、一方で小規模なシェアハウスのようなところで生きていきたいという方も少なくない。紙面では、そんな事例も多数紹介してほしい。

だんだん会
一般社団法人

- ・法人本部 0551-45-9566
- ・地域看護センターあんあん 0551-30-7505
- ・定期巡回てくてく24 0551-30-7787
- ・訪問介護にこにこ 0551-30-7787
- ・わがまきハウス山吹 0551-45-6323
- ・グループホームわいわい白州 0551-30-7566
- ・リハ特化半日デイるんるん 0551-30-9251
- ・オレンジサロンわいわい 0551-45-9566